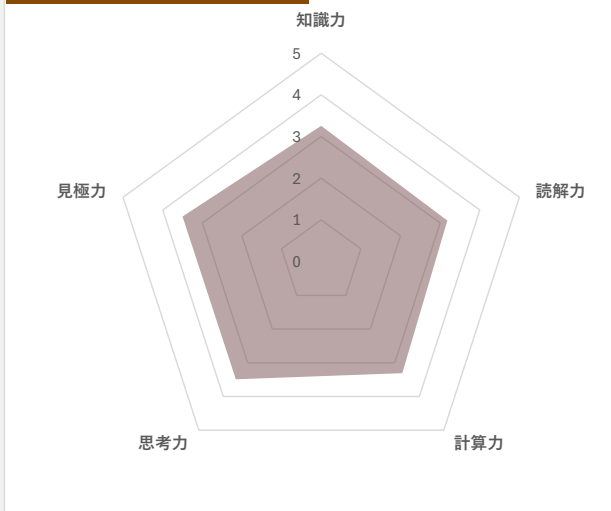


総合分析

試験区分	一般		
制限時間	60分 (理科 2科120分)	大問数	全 4 問

合格に要する能力 (5段階)

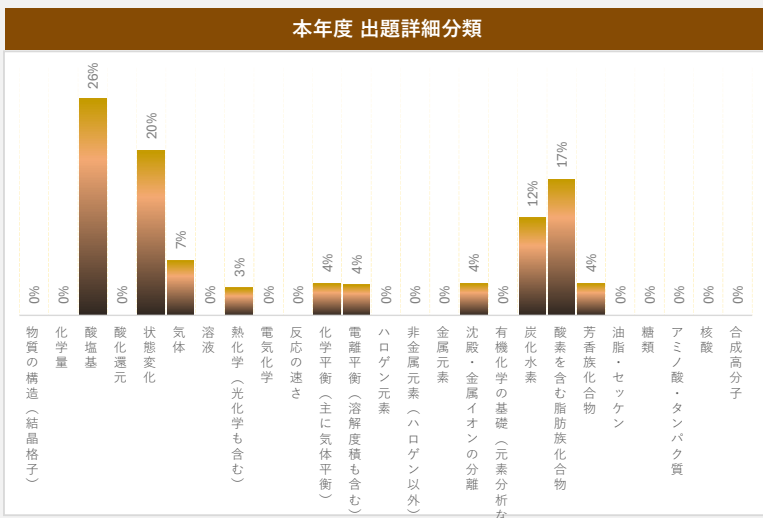


分野	割合
理論	64%
無機	4%
有機	32%

問	テーマ
第 1 問	小問集合 (沈殿生成、平衡、芳香族カルボン酸)
第 2 問	リン酸の中和滴定
第 3 問	純物質の状態変化
第 4 問	アルケン・アルコール

答えのみ記述	88%
選択	

能力	スコア	説明
知識力	3.1	物質, 反応, 解法の知識
読解力	3.0	問題文から必要な情報を抽出できるか
計算力	3.1	手際よく正確に計算できるか
思考力	3.3	基礎知識や問題文から推測する力
見極力	3.3	解きやすい問題を選択する力



特殊問題の有無	数値計算あり	グラフあり	正誤問題あり	理由記述なし	図表あり
---------	--------	-------	--------	--------	------

特記事項	特になし
------	------

総合評価

難度	3.1	最難を 5 とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率 (予想)	75%
分量	64分	完答に要する時間 (制限時間は60分)	やや多い	高い正答率を要する	

入試の特徴と対策	強い特徴や偏りが無いバランスがとれた入試である。特別な対策は必要とせず標準的な高校化学の学習でよい。
入試から見る大学が求める学生像	平易な問題が多く、苦手分野を作ってしまうと致命的である。理論分野における計算問題に関しても、難しすぎず、著しく時間に余裕がないわけでもない。計算問題でしっかり得点できるかどうかは重要である。大問2のように、大問の前半部分の小問を間違えることで後半部分の小問まで連鎖する問題もあるので、注意力も必要である。